

たが、今後は包括的な事前承認で事足りることになった。

カナダと日本が原子力平和利用に関する協力協定を結んだのは一九五九年。この原子力協定は一九八〇年九月に改正され、核拡散防止のうえから使用済み核燃料の再処理および再処理のための海外移出については、そのつどカナダ政府の承認が義務づけられた。

カナダが「包括事前同意制」を認めたのは、スウェーデンとユーラトム（欧州原子力共同体）に次いで日本が三番目。日本はカナダ第一のウラン輸入国であり、今度の合意で、日本は核燃料サイクル作業をより計画的に進められるようになり、エネルギー安全保障に役立つものとみられる。

カラシから食用油 カナダ農務省が研究

マーガリンやマヨネーズに使う食用油の原料となる油糧種子としては、大豆、綿実、落花生、なたねなどがよく知られているが、カナダではいま、カラシから食用油を採る研究が進められている。

カラシがこれまで食用油に利用されなかったのは、人体に有害なエルシン酸を含んでいるため。最近になって、オーストラリアの研究者がエルシン酸含有率の低い新しい品種のカラシを開発した。カナダ農務省のサスカトーン研究所では、これを一歩進めて、カラシの粉末油かす（ミール）を飼料

にする方法を研究している。

カラシは硫黄分の多いグルコシノレートとを大量に含んでいるため、そのままで飼料に適さない。そこでサスカトーン研究所では、グルコシノレートを取り除くのに効果的な方法を開発したほか、グルコシノレートを含まない新品種の開発に取り組んでいるという。

（カナダはすでに、なたねからエルシン酸とグルコシノレートを除去するのに成功した。新品種はキャノーラの名で、食用油および飼料用に西部カナダで広く栽培されている。）

カラシはなたねに比べて干ばつに強く、乾燥しても砕けにくいため、なたねの栽培に不適な場所でもよく育つ。昨年の作付面積はカナダ全体で八万ヘクタールだが、油糧作物に転換できれば、生産量は大幅に増えるものと予想される。

カナダ講座担当にカーティス教授

今年度のカナダ研究講座担当教官として、ラバル大学（ケベック州）のケネス・S・カーティス教授が着任した。

教授（写真）はオンタリオ州ロンドン出身で、ヨーク大学グリーンドン・カレッジで学士号（政治学、経済学）、英国のサセックス大学で修士号（国際政治、経済学）、フランスのヨーロッパ経営研究院で経営



修士号、バリ政治学院で博士号を取得、バリ大学などで講師をしたあと、一九七四年からラバル大学で政治学部教授の地位にある。

すでに筑波、慶応、東京の各大学でカナダの政治や経済について講義しており、九月からは国際基督教大学でもカナダ講座を担当する予定。

義足でも楽にジヨギング オンタリオで開発中

ジヨギングのできる義足があれば——オンタリオ州ハミルトンのマクマスター大学では、「片足ランナー」として知られた故テリー・フォックスの要望を取り入れたジヨギング義足を開発している。

がんで右足を失いながらがん研究費募金のため全国縦断マラソンに挑んだテリー君は、ハミルトンに立ち寄った際、マクマスター大学のマーテル教授に、健康な方の足によく運動する義足があればもっと楽に走れるのに、と改善を訴えた。

テリー君はその後、志半ばにして倒れたが、マーテル教授のチームは、彼の望みを何とか叶えられないかと、片足の人でも楽に走れるような義足の研究を続けてきた。

教授によれば、新しい義足は丈を短くし、体重がかかっている間は足元がぐらつかず、また膝も自由に曲がるように設計されているため、普通の人とほとんど同じ走り方ができるといふ。

アジア・太平洋財団の創設へ カナダ政府、組織委員会を設立

アジア・太平洋地域に対するカナダ国民の認識を高め、カナダの同地域との関係を促進していくための機関として構想されていた「アジア・太平洋財団」の組織委員会がこのほど発足した。委員長はカナダ・ハーバー・ブレイス社のジョン・ブルック副会長。

アジア・太平洋財団は、一九八〇年にバンクーバーで開かれた第一回「環太平洋関係を考える会議」で提案されたもので、カナダにおけるアジア・太平洋地域への認識と理解を深める機関として経済学界、政界から大きな支持が寄せられた。

組織委員会の運営費は連邦政府が全額負担するが、財団発足後は連邦政府が運営費の半額、残りを州政府および民間の拠出金でまかなうという。

新生児死亡率が五年で半減 マニトバ州で新しい手術法

妊娠中の胎児の異常を発見し、胎内に入ったまま手術する——マニトバ州ウイニペグの専門家チームは、特殊カメラで母体を走査しながら胎児を診察あるいは手術する方法によって、同州における新生児の死亡率をここ五年間で半減させることに成功した。

マニトバ大学のフランク・マニ

ング博士らによって開発されたこの方法は、超音波・高感度のスキヤニング（体内の動きを特殊カメラで走査し、異常な部分を発見しようという診断法）を羊水穿刺手術に取り入れたもの。これまで手さぐりでやっていた胎内の手術が、超音波の「道案内」で注射針を母親の子宮壁を通して正確に胎児の腹に穿刺することができた。これによって、例えばRh因子の不整合を避けるための子宮内血液交換が、きわめて安全にできるようになった。マニング博士を中心とする周年期（出生周辺期）専門家チームは、これまでに、この方法で何百件もの胎内輸血を行なった。外国から送られてくる妊婦も多いという。

BC州選挙、ベネット政権が再選

ブリティッシュ・コロンビア州で五月五日、州議員選挙が行なわれ、ウイリアム・ベネット現首相の率いる社会信用党が三十五議席対二十二議席で野党の新民主党を破り、七五年、七九年に続いて三たび過半数を制した。

大使館案内

●「カナダ・ジュエリー展」六月二十一—二十三日、東京・カナダ・トレード・センター

●「ユニバーシアード83」七月一—十一日、アルバータ州エドモントン